

フィールド レポーター便り



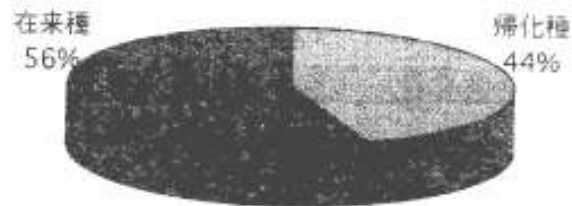
レポーターの皆さん、暑い日が続きますがいかがお過ごしでしょうか。さてタンポポ調査も 358 件の調査データが集まり、ボランティアの方々の協力のもと整理する事ができました。ここで「フィールドレポーター便り」として報告をさせていただきます。

第1回調査「タンポポ調査」とりまとめ結果報告

帰化種？在来種？

タンポポの報告の内分けは帰化種が 157 件 (44%)、在来種が 197 件 (56%) で在来種が、帰化種を上回りました。あとタンポポ以外の植物の報告が 4 件ありました。

在来種で多かったのはカンサイタンポポ、シロバナタンポポ、帰化種で多いのはセイヨウタンポポでしたが、不明も多く種類の特定は難しいようでした。



帰化種のタンポポ (種不明)

写真提供：信楽町 相楽貞喜さん



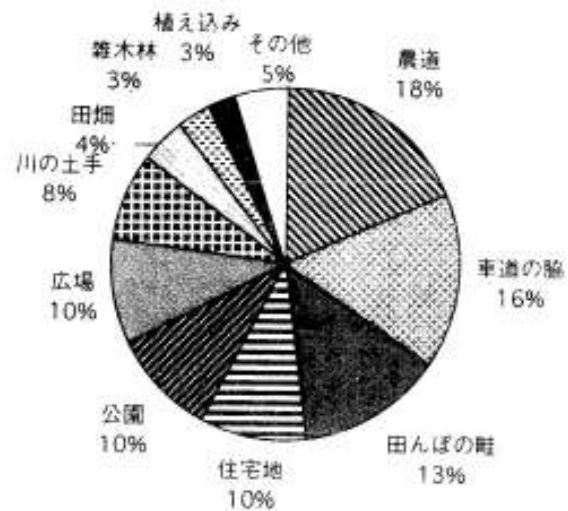
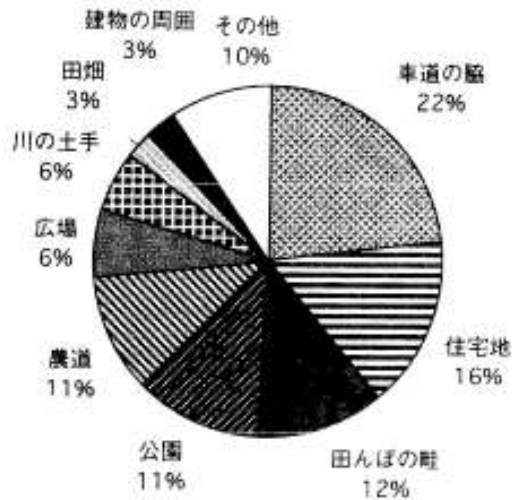
在来種のタンポポ
(カンサイタンポポ?)

写真提供：大津市 山本仁一さん

帰化種

まわりの環境

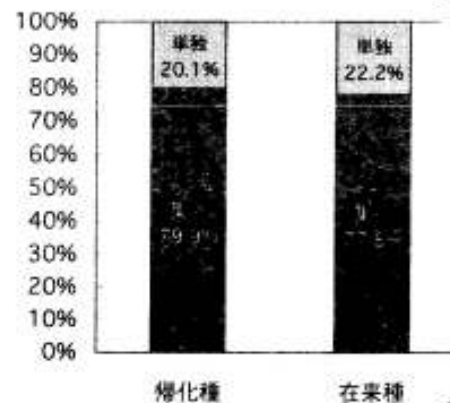
在来種



タンポポの生えていた環境を帰化種、在来種ごとにくらべてみました。帰化種が多く見られたのは車道の脇と住宅地、在来種が多く見られたのは農道と車道の脇で、両種ともそれに田んぼの畦が続きます。この結果を見てもタンポポは全くの自然の中でなく、多少人の手が多く入ったところに生える性質があり、どちらかというとな帰化種はアスファルトなどで固められた市街地に、在来種は郊外に生える傾向があります。

タンポポの生え方

調べた株の周囲に同じ種類がなければ単独、あれば集団としました。帰化種、在来種とも集団で生えている例が8割弱でした。帰化種は繁殖方法の特性上、一株だけでも種を結ぶことができ、空いた土地にどんどん入り込めますが、在来種は近くの別の株から花粉をもらわないと種をつくれません。このことから帰化種は単独の割合が多いと予想したのですが、意外にも差は見られませんでした。

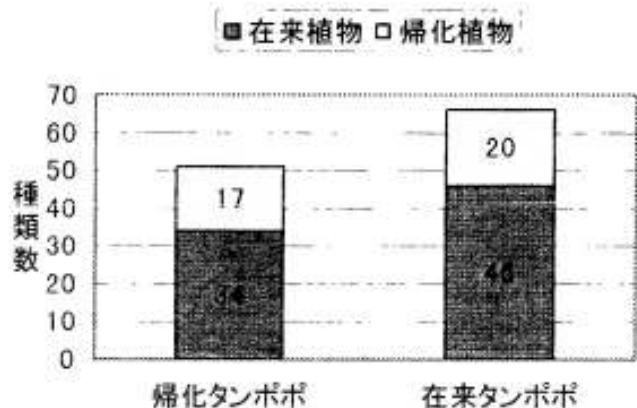


たんぽぽ質問コーナー (その1)

- Q：帰化種・在来種の花の時期はいつですか？（草津市 古谷善彦さん）
 A：どちらも4月中～5月中が花のピークですが、帰化種は一年中咲かせています。
- Q：タンポポの名前の由来？（大津市 前田雅子さん）
 A：いくつかの説があります。「たんぼ」の穂と言う説。ただし墨をつける「たんぼ」と穂の先にかぶせる「たんぼ」があります。また中国語で発音が「たんぽぽ」に似ているとの説。
- Q：ドライフラワーにしにくいのですが、どうしてなのでしょう？（京都市 鈴木良子さん）
 A：ふつうに干したら乾く前に綿毛になってしまいます。乾燥機やシリカゲルで強制的に乾燥すれば、可能かもしれませんが...実験してみてください。

いっしょに生えていた植物の種類

できれば調査でお願いした項目です。帰化種のタンポポ 41 件、在来種のタンポポ 35 件の報告がありました。帰化種のまわりに 52 種の植物が、在来種のまわりには報告件数が少ないにもかかわらず 68 種の植物の報告があり、在来種の生える環境は種の多様性が高いと言えます。生えていた植物の 31 種が両種のタンポポに共通に見られ、また生えていた植物の帰化種（ここでは新帰化種＝江戸時代末期から現在までに進入した種）の割合も約 30 % 前後で、タンポポの帰化・在来の違いによるまわりの植物の帰化種の割合に明らかな差は見られませんでした。



タンポポの思い出

タンポポにまつわる思い出もたくさんお寄せいただきました。一部ですが紹介します。

☆子供の頃の遊びとして

首飾り、腕輪、ままごとのごちそう、花とばしなどしたり、茎で笛を作ったり、うず巻状にまいたり、相撲をとったり、綿毛をとばしたりした。(甲賀町 中井民子さん、京都市 鈴木良子さん、野洲町 大町千恵子さん、大津市 保科秀行さん、草津市 中後佐知子さん、草津市 小林光子さん、秦荘町 北川幸雄さん、能登川町 田中明子さん、土山町 小倉廣雄さん)

☆教えられたこと・注意されたこと

綿毛が耳に入ると聞こえなくなる。花をなめると熱が出る。(新旭町 落合福子さん、草津市 山崎裕空さん、土山町 岡崎直純さん、草津市 宇野公子さん、京都市 鈴木良子さん、草津市 杉江ミサ子さん)

たんぽぽ質問コーナー (その2)

Q: タンポポの茎をたてにさくと外側にカールするのはなぜ? (能登川町 田中明子さん)

A: パイプ状の花茎の外側と内側で構造が違うからだと思います。外側は繊維質で細胞がしっかりしていますが、内側は柔らかく水分を吸うと細胞が膨らむのではないかとのこと。



Q: 北海道出身ですが、子供の頃白いタンポポを見たことが

(図: 秦荘町 北川幸雄さん)

ありません。関西地方にしか生えてないのですか? (能登川町 田中明子さん)

A: 在来種の雑種で生まれました。九州ではじめに見つかり最初一株からクローン生殖で日本中に分布を広げている最中です。滋賀県では 20 年前の調査で愛知川以南の分布でしたが、現在ではほぼ全県に広がっています。分布は日本を東進北上していますが、どこまで行っているか調べられていないようです。

自由型調査

アンケート調査以外にも季節や自然環境、地域の行事など多くのお便りがありました。ここではその一部を紹介します。特に昨年度ツバメの調査をしたからでしょうか、ツバメに関する報告が多く寄せられました。

◎ 家の周りでツバメの声をよく聞くなあと感じていたところ、4月22日私の家の軒下にツバメの巣があるのを発見したのです。何か良いことがあるかしら。(野洲町 大町千恵子さん)

◎ 初飛来の報告

3月21日 …… 近江町 樋口善一郎さん
4月10日 …… 木之本町 岩根健治さん
5月 3日 …… 大津市 伊東貴美子さん



◎ 4月28日、裏山でハルゼミが鳴きました。29日には近くの田んぼにアマサギの一群、20羽余りがやってきました。(近江町 田中茂さん)

◎ 朝、緑の木々の中に真っ白な泡が、今にも池の中に落ちるかと思われる形で付いていました。モリアオガエルの卵でした。孵化するのが楽しみです。日中でしょうか、夜でしょうか？(大津市 伊東貴美子さん)

A: 泡の中の卵は約1週間でふ化し、そのまま泡の中であと1週間ほどオタマジャクシのまま成長します。時期が来ると泡を溶かしてオタマジャクシが水面にぼとぼと落ちますが、夕方から夜にかけてが多いようです。

◎ 先週の日曜日(5月23日)に近所でサルを見ました。大きいサルと小ザルでした。サルはフェンスの上で威嚇し、こちらが驚いて逃げた次第です。自然一杯の中で暮らしています。(大津市 渡辺英子さん)

◎ 7月5日に近江町で行われたオオムラサキ観察会で、ちょっと変わった試みがありました。ハンド・ベアリングってご存じですか？採卵のため人工的に交尾させることです。オスがメスの腹端をつかむまで汗だくの実習となりましたが、自然界の不思議に参加者は感動の連続でした。(近江町 樋口善一郎さん)

ボランティアからの声

手探りで始まったボランティア活動も、現在約50名の方々の参加を得て、フィールドレポーターによるデータのまとめと整理を行っています。レポーターの方々の熱意に感心させられるとともに、自分も大いに勉強させてもらっています。(YA)

皆さんから送られてきた調査票を整理していますと、学芸員の方々から受ける知見とはまた異なった実に多くの事柄を教えられ、この仕事を愉しんでいます。そしてこんな愉しみも博物館にはあったんやと博物館を再評価しているのです。(津田)

担当からのお知らせ

レポーターやボランティアの方々の協力により集まったこれらのデータは、博物館の展示やホームページの資料として利用していきたいと思っております。ありがとうございました。現在平行してホテル調査のとりまとめ、案山子調査の整理準備を行っています。こちらの方もご協力よろしくお願いたします。

滋賀県立琵琶湖博物館交流センター科

桑村 邦彦



TEL 077-568-4811 FAX 077-568-4850

E-mail kuwamura@lbm.go.jp